F2-44

オーストラリア基準に基づくわが国のエコツアー評価に関する研究

Assessment of Eco-Tours in Japan Based on Australian Criteria

○仲山志弥 [1]，　藤井敬宏 [2]，　伊東英幸 [2]
*Yukiya Nakayama[1]，　Takahiro Fujii[2]，　Hideyuki Ito[2]

Abstract: It is not clear whether eco-tours in Japan are in compliance with the concept of eco-tourism in the world. Therefore, the purpose of this study is to clarify the problems of eco-tours in Japan by using evaluation items of ECO program, which is an eco-tour certification system satisfying the global standard. As the result, it was concluded that certified-type eco-tours are not sufficient in staff training, while non-certified type eco-tours do not pay adequate consideration to environmental conservation.

１．はじめに

エコツーリズムとは,「①自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること，②観光によってそれらの資源が損なわれないように適切な管理に基づく保護・保全を図ること，③地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果が実現すること」と定義されている．また，この考え方に基づいて実施されるツアー形態をエコツアーという [1)]．

わが国のエコツーリズムの取り組みの中でエコツーリズム促進を目的として，エコツアーの内容や取り組みを情報提供しているものがある．その中で，エコツアーとして認定する認定型の「グッドエコツアー」と，エコツアーと認定されていないが，環境への取組みを掲載している自己推薦型の「エコツアー総覧」がある．ツアー数は，グッドエコツアーが 39 ツアー，エコツアー総覧が 365 ツアーと，自己推薦型のエコツアーが 90%を占めている．そのためわが国のエコツアーは，エコツーリズムの世界基準に則った概念に基づいた運営がなされていないことが懸念される．

そこで，本研究は，わが国で実施されているエコツアーの問題点・課題点を明らかにするために，世界基準として評価の高いオーストラリアのエコツアー認定制度 ECO program の評価項目をわが国のエコツアーに適用して検討する．

２．既往研究の整理

エコツーリズムに関する研究としては，久保ら [2)] が観光活性化を目的としたエコツアー参加者と潜在的参加者のニーズの把握をしている．また，山本ら [3)] はエコツアーのガイドに着目し，実態把握やガイドの役割を明らかにしている．

エコツーリズムに関する研究としては，地域の実態や取り組み状況等の現状の課題点を指摘する研究が多いが，本研究のような世界基準と評価される評価基準を用いて課題点を明らかにした研究はみられない．

３．研究の方法

（１）本研究で用いる評価項目

本研究で用いるオーストラリアのエコツアー認定制度 ECO program の評価項目は，エコツアーの質的レベルを担保するために設定された世界初の認定制度であり，世界的にも先進的で洗練された仕組みとして評価されるとともに国際的な組織から認定を受けた [4)5)] 評価項目である．

なお，わが国で実施されているエコツアーにおいて，「宿泊を伴うツアー」・「飼育動物に関連したツアー」・「先住民と関係したツアー」がないため，一部評価項目を削除した．評価項目の構成を Table1 に示す．

Table1. Classification of assessment items

分類	分類名	評価項目数	
		変更前	変更後
Ⅰ	経営管理と運営計画	6	6
Ⅱ	マーケティング	6	6
Ⅲ	環境管理	173	28
Ⅳ	インターブリテーションと教育	15	15
Ⅴ	保全への貢献	23	23
Ⅵ	地域社会への仕事	20	20
Ⅶ	文化の尊重	27	21
	合計項目数	270	119

１：日大理工・院（前）・交通　２：日大理工・教員・交通

４．ECO program を用いたエコツアー評価

（１）調査概要

わが国の 404 ツアーを実施している団体・企業に電話による調査依頼をかけ，調査協力の意思を表された 129 の団体・企業に対し，ECO program の評価項目を電子ファイルで送付し、各評価項目を「①取組んでいる，②一部ツアーで取組んでいる，③取組んでいない，④全く該当しない」の４段階で回答していただいた．調査の概要を Table2 に示すが，評価項目数が多かったため，現段階で回答件数は 13 件に止まっている．

Table2. Outline of questionnaire survey

調査対象	グッドエコツアー認定団体・企業　21件 エコツアー総覧掲載団体・企業　108件
調査方法	メールによる調査シートの配布
調査項目	団体・企業の取組み状況 ①取組んでいる　②一部ツアーで取組んでいる ③取組んでいない　④全く該当しない
回収状況	グッドエコツアー認定団体・企業　7／21件 エコツアー総覧掲載団体・企業　6／108件

（２）調査結果

グッドエコツアー（認定型）およびエコツアー総覧（非認定型）における評価項目の取組み状況を Figure1 に示す．なお，全く該当しないと回答した評価項目は全体の３割にも及ぶものであった．

両エコツアーを合わせた全体でみると，取組んでいる・一部取組んでいるエコツアーは，約７割を占めていることが明らかとなった．同様に，グッドエコツアーとのみでみると８割程度，エコツアー総覧でみると６割程度と両ツアーに差が生じており，グッドエコツアーの方が世界基準の評価項目に準拠した質の高いツアーを提供できている状況が明らかとなった．

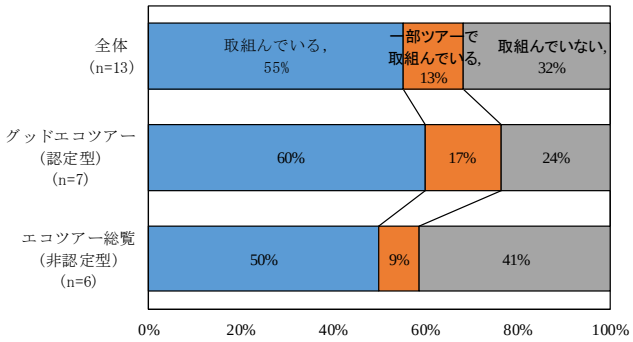

Figure1. Results of assessment

次に ECO program の評価項目で取組まれていないと回答された評価項目を Figure2 に示す．

グッドエコツアー（認定型）では，Ⅳのガイド計画やスタッフトレーニング，認識，理解といったスタッフ育成項目において不足している要素が多い傾向にある．また，エコツアー総覧（非認定型）では，Ⅵの地域への貢献に加え，Ⅲの車両利用の最小化やⅤの保全への貢献等といった環境保全に関係した評価項目に対して不足している要素が多い傾向にある．

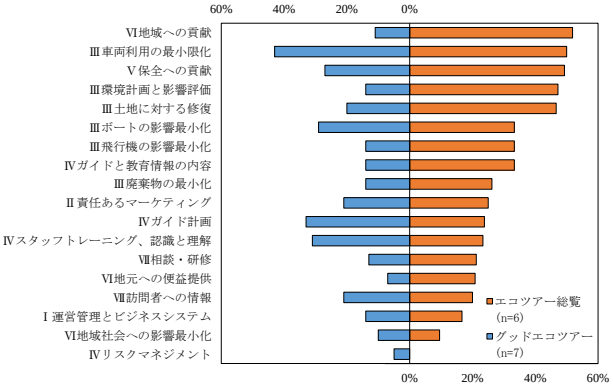

Figure2 Lack elements

５．まとめと今後の課題

ECO program の評価項目を用いた検討により，ツアー形式が異なるために該当しないツアーが約３割程度も占めていることが明らかとなった。

また，認定型のグッドエコツアーの方が質を担保される傾向が高く，スタッフの育成に取り組む課題も抽出することができた．また，わが国の 90%以上を占める非認定型のエコツアー総覧では，環境保全を評価できない実態が明らかとなり，エコツアーの概念に則ったエコツアーとして運営されていない懸念がより具体的に抽出された．

今後は，団体・企業への調査協力を更にお願いするとともに，オーストラリアで認定されているエコツアーとの実質的な比較検討を行う予定である．

６．参考文献

[1] 日本エコツーリズム協会ホームページ
最終閲覧日 7 月 16 日，http://www.ecotourism.gr.jp/

[2] 久保ら：知床のエコツアーに対する一般市民と訪問者の選好の違い，ランドスケープ研究，Vol. 74，pp.527-530，2011 年

[3] 山本ら：青木ヶ原樹海における利用者の環境配慮意識とガイドの必要性に関する研究，ランドスケープ研究，Vol.69，pp.641-644，2006 年

[4] 小菅ら：オーストラリアエコツーリズム認証商品の取得年別分布と宿泊施設の立地環境について，ランドスケープ研究，Vol. 75，pp.513-518，2012 年

[5] D.A. Fennell ら：Policy and Planning，The Encyclopedia of Ecotourism，CAB International，Chapter29，pp.463-477，2001 年